

# 第 19 回西日本技術士研究・業績発表年次大会

～地域存続に向けた相互扶助と技術士に期待されるもの～

## ■第 19 回西日本技術士研究・業績発表年次大会 (高知)

日時:平成 25 年 10 月 25 日(金)～26 日(土)

場所:坂本龍馬記念館、桂浜、料亭「得月楼・濱長」及び高知会館

参加者:テクニカルツアー 14 名、レセプション1  
47 名、レセプション2 19 名、年次大会  
74 名

本大会は、西日本（近畿、中国、九州、四国）の技術士が一堂に集い、日頃の研究・業績の成果を発表し合い交流を深めるために、毎年開催されており、今回は、地域と技術士の連携という視点から「地域存続に向けた相互扶助と技術士に期待されるもの」をテーマに開催された。

<第一日目 13:00～22:30>

・テクニカルツアー(坂本龍馬記念館、桂浜 13:00～17:00)

台風 27 号がせまる中、開催が危ぶまれましたが、無事はりまや橋観光バスターミナルを出発し、坂本龍馬記念館、桂浜に向かった。

龍馬記念館では、龍馬が残した手紙や龍馬が使用した刀など多くの遺品が展示され、龍馬の生きた時代の一端を垣間見ることができた。

その後、森館長より講演があり、現在寄付により資料が増え別館の建立、8 月に開催された子ども・龍馬フォーラム、公平を思想とする勝海舟との出会い、台湾の李登輝元総統が記念館を訪れた時等の興味深い話に楽しい充実した時間を過ごした。講演後、雨の降る中、桂浜に向かった。



坂本龍馬記念館での見学の様子



森館長による講演

桂浜の龍馬像前での記念撮影

・レセプション1(得月楼 18:00～20:00)

交流会は、高知を代表する料亭「得月楼」(前身は、映画「鬼龍院花子の生涯」の舞台となった「陽暉楼」)で行われた。

四国本部の右城副本部長の挨拶で始まり、高知県技術士会の村山名誉顧問、また、来賓として、(公社)日本技術士会の鮫島副会長、大田中国本部長、武山四国本部長、福岡近畿本部長、甲斐九州本部長が挨拶をされ、武山四国本部長の乾杯で宴が始まった。会員同士の懇親を深めながら、途中、昨年のよさこい祭りで大賞に輝いた「とらっく」チームの鳴子踊りを鑑賞した後、出席者全員で鳴子踊りを行い、おおい盛り上がった。高知県技術士会の山本副代表幹事の中締めにより閉会した。



右城副本部長の挨拶

村山名誉顧問の挨拶

鮫島副会長の挨拶



大田本部長の挨拶

武山本部長の挨拶

福岡本部長の挨拶



甲斐本部長の挨拶

「とらっく」の鳴子踊り

全員での鳴子踊り

## ・レセプション2(濱長 20:30~22:30)

交流会の2次会は、得月楼と並ぶ高知を代表する料亭「濱長」で行われ、さらなる会員同士の懇親を深めるとともに、芸姑さんの踊り等の土佐のお座敷遊びを堪能した。



宴会の様子

芸姑さんの踊り

## ＜第二日目 高知会館 9:30~16:40＞

### ・式典(9:30~10:00)

式典は、四国本部の仙波事業副委員長の司会で、主催者側の武山四国本部長の挨拶で始まり、来賓として、(公社)日本技術士会の鮫島副会長、国交省地方整備局の三浦整備局長(代理 高知河川国道事務所 高井副所長)、高知県土木部の平田副部长、高知市の岡崎市長(代理 都市建設部 永野副部长)より挨拶を頂いた。



武山本部長の挨拶

鮫島副会長の挨拶



高井副所長の挨拶

平田副部长の挨拶

永野副部长の挨拶

### ・基調講演(10:00~11:00)

演題:「新しい公(おおやけ)を創るための技術士の役割」

講師: 高知工科大学マネジメント学部教授  
地質リスク学会会長 渡邊法美

渡邊教授からは、談合防止対策検討委員会の感想、地質リスク学会の活動、物部川の環境保全活動等を通しての技術士の役割についての講演があった。

談合防止対策検討委員会での感想として、日本とアメリカの公共工事システムの競争の違い、アメリカの建設会社のトップ10の推移の変化大きいのに対して日本の建設会社のトップ10はほとんど変化がないこと、戦後日本の公共工事入札の特徴、談合実施の根源的一因、脱談合への根本的一案等について、地質リスク学会の活動として、過去の事例研究の分類、地質リスク学会の意義、地質技術顧問の参画による解決案の一例について、物部川の環境保全活動として流域のビジョン、ミッションを市民・行政・企業それぞれの立場での参画等についてお話を頂いた。最後に、人々のために、また、人々とともに生活設計を行うことがこれからの技術士のあり方では締めくくって頂いた。



渡邊教授による講演

### ・論文発表(11:00~16:40)

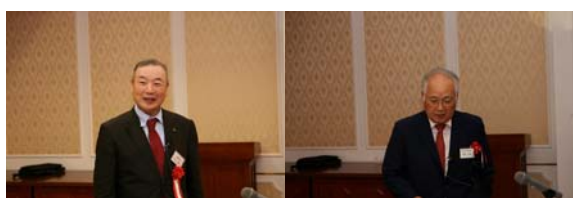
論文発表は、四国本部が4編、近畿本部・中国本部・九州本部が各2編で合計10編であった。発表項目は、防災関連・地域振興・社会要請・官民連携・国際交流等多岐にわたっており、いろいろな視点からの技術士が果たすべき役割について発表があり、大変参考になった。

1. 「ドックフード缶開缶の際に発生した傷害事故に関する技術報告書」近畿本部 外山榛一
2. 「南海地震の発生予測に関する研究」四国本部 中村和弘
3. 「人口減少社会でのインフラ等のあり方と官民連携の必要性」中国本部 松澤秀康
4. 「木造建築の推進に向けて」四国本部 網田克明
5. 「途上国を対象とした技術研修の形」九州本部 八百屋さやか
6. 「地域存続に向けた技術士制度の今後のあり方」近畿本部 杉本哲雄
7. 「アルジェリアでの高速道路施工にともなう地すべり対応」四国本部 高柳朝一

8. 「まちづくりに関して技術士のできること/可部まちづくりを視察して」中国本部 亀田雄二
9. 「地域主導と持続可能な取組を目指して」九州本部 清崎淳子
10. 「『亡所』に着目した高知県沿岸部の宝永地震ハザードの検討」四国本部 松尾裕治

部長より挨拶があり、今大会において「最高のおもてなし」をして頂いたという感謝の言葉、第20回という節目の次回大会に向けて現在準備中である旨のお話を頂いた。

最後に、四国本部の右城副本部長による閉会の挨拶で締めくくった。



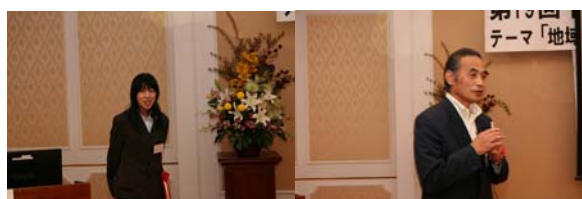
外山さん

中村さん



松澤さん

網田さん



八百屋さん

杉本さん



高柳さん

亀田さん



清崎さん

松尾さん



岩原事業委員長による大会講評



福岡近畿本部長による挨拶



右城四国副本部長による閉会の挨拶

論文発表後、四国本部の岩原事業委員長より、大会講評の取りまとめを行って頂いた。

また、次回大会開催地となる近畿本部の福岡本